



学園だより No.26

■発行人・発行所/  
 学校法人 北海道カトリック学園 理事長 勝谷 太治  
 札幌市中央区北1条東6丁目10カトリック札幌司教館内

### クリスマスといのちの電話

理事長 勝谷 太治

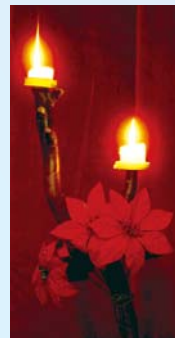


この時期になるといつもある場面が心に思い起こされます。他に人のいない薄暗い部屋で夜通しボックス状に仕切られた電話の置いてある机に向かい、受話器の向こうから聞こえてくる声に必死に耳を傾けているのです。やり場のない苦しさや寂しさをかかえ、打ち明けられる人もなく、多くの人が最後の望みをかけ、話を聞いてもらいたくてそこに電話をかけてくるのです。この時期、その中の多くの

人が自殺をほのめかします。クリスマスから正月にかけて、世間が皆幸せそうになっている時だからこそ一層増し加わる孤独感。私自身も、楽しく過ごす仲間はいても、自分の本質的な孤独を分かち合える友は少ない、自分も彼らの仲間だ、そういう不思議な共感をもってその寂しさを共有しながら暗い部屋で一人受話器に向かっています。ずいぶん昔にいのちの電話の相談員をしていた時のことです。電話の向こうにいる人の重たい話に時間をかけじつと耳を傾けていると「あ、心が触れあつた」と感じ、ふっと心が軽くなる不思議な瞬間があります。それは双方が同時に実感するもので、それまでの重苦しい雰囲気

が突然明るくなるのです。相手に冗談を言うゆとりさえできてきます。問題は何も解決していません。相談者の多くにとって大切なことは問題解決の方法ではありません。心の絆の実感の欠如が彼らを苦しめているのです。問題を聞いてもらうことではなく、自分を聞いてもらうことを求めているのです。ただ、会話を通して「心が通じた」瞬間が互いの「救いの時」なのです。至福の瞬間とも言えるその関わりは電話のラインがつながっている間だけの片時のものしか過ぎません。しかし、その時、世間の軽々しく、騒々しいだけの楽しい光景よりはるかに確かな関わりだという実感を持つのです。そして、「この人はだいたいようぶだ、死なない」という絶対的な確信を持つて受話器を置くのです。

クリスマスが、すなわち神の子イエスの誕生が、全ての家庭にとって、傷ついた心の絆を癒し、愛を強め、希望へ導く「救いの時」となりますように。



### 「ありがとう」を「ありがとう」

広島天使幼稚園 園長 佐々木 圭子

つい最近の事です。お弁当を忘れてしまった女の子に、お仕事中的お母さんに代わって小さなお弁当を用意しました。その日の夕方、廊下で目が合ったその子が「今日のお弁当おいしかったよ。私、ツナのおにぎり大好きなんだ。ありがとう」と言ってお手を繋いでくれました。誰に言われるでもなく、あらためて自分の言葉でお礼を伝えるにきてくれた事に感動し、「ありがとう！」という思いで胸がいっぱいになりました。

私達は子どもと一緒にいると心が柔らかくなり、自然に笑顔が増え、飾らない言葉で会話する事ができます。お父さんやお母さんを見ていても、「素敵な笑顔だなあ」と感動する瞬間があります。大人も本来持っているはずの素直さや優しさが、子どもから知らず知らずのうちに引き出されているのでしょうか。この子どもからの引力によって、私達は自分の持っている物の全てで「何かしてあげたい、伝えたい、守ってあげたい」と強く望み、それがさらに「愛おしさ」や「無償の愛」を生むのではないかと思います。

## 幼稚園紹介 ～心を繋ぐ～

### 岩見沢天使幼稚園



昭和17年に設立した本園は、市内で最も歴史のある幼稚園です。縦割り4クラス。現在、年長31名、年中40名、年少24名、満3歳13名の計108名が在籍しています。年下にとって年上は身近なお手本です。その姿に憧れ真似ることは今後の自分を見通すことに繋がります。また年上にとって年下の存在は頑張りへの原動力。年下へのお世話を通し「人の役に立つ喜び」を日々体験できることも縦割りクラスの良さだと実感しています。さらに昨年度新たに母子分離型の2歳児クラス『おひさま』がスタートしました。最初はお母さんと離れて泣いていた子どもも、登園回数を重ねることに慣れてきて、今では園バス乗車や園児と一緒に昼食時間も楽しんでいきます。



岩見沢天使幼稚園 教諭 野口 佳穂

### 花川マリア幼稚園



本園は、閑静な住宅地と緑豊かな公園の間に在ります。そのため、子どもたちが外で遊ぶと、地域が華やかな雰囲気になります。12月現在、園児数は101名、モンテッソーリ教育を取り入れており、縦割りの4クラスで生活しています。うち、満三歳児が8名です。小さい子は大きい子に可愛がられ、園生活のスタートを迎えます。満三歳児同士でも、先に入園した「先輩」は、「可愛いね」と

声を掛けながら、短期間で覚えたいことを教える姿があります。園生活は子どもが主体で、教師は子どもの自立への育成を手伝います。子どもたちは教師の姿をよく見ていて、お世話をすることに興味を持ちます。最初は「してあげる」だったのが徐々に「手伝う」になり、関わり方が上手になります。年上の子も私たちは「平和を愛する人」「自立（自認める優しい心も育ち、小さい子が出来るようになったと生活する人）」「自分と同じ

ことを自分のことのように喜びます。昨年は「これで安心して小学校に行ける！」と卒業していく子もいました。子どもの社会で必要なことを学ばせ、育ち合う環境を整えることが、縦割り保育の中での大切なことであることを日々の子どもたちの姿から私たち教師は学んでいます。本園を卒業していく子どもたちが、教育目標にある『自立（自認める優しい心も育ち、小さい子が出来るようになったと生活する人）』『自分と同じ



花川マリア幼稚園 教務主任 本吉 純子





今、これやってるよ!

### 倶知安藤幼稚園

## 「クリスマスお祝い会に向けて」

倶知安藤幼稚園 教諭 田中 くるみ



倶知安町を見守る羊蹄山の頂も白くなり始めた頃、二期で一番大きな行事であるクリスマスお祝い会に向けての活動が始まりました。本園では縦割り保育を行っています。クリスマスお祝い会では年齢別に分かれて、年長児は聖劇、年中児は劇、年少児はオペレッタを発表します。年長児の聖劇では、これまでの年長児の取り組みを憧れの眼差しで見えてきたため、いよいよ自分たちが行なうこと

ができる喜びと期待に満ちて取り組んでいます。その年長児の姿に年中少児は「聖劇って素敵」「年長さんになったらこの役がやりたい」という憧れを抱き、より一層張り切っています。クリスマスお祝い会の活動の中で互いに育ちあい、気持ちをつなげていく子どもたちの姿を大切に過ごしていきたいと思っております。



### 長沼カトリック聖心幼稚園

## 子どもの成長を期して

長沼カトリック聖心幼稚園 園長 坂本 貴裕



大きな行事を終えると、子どもたちは飛躍的に成長する経験を皆さんお持ちのことと思います。本園においても、六月に行われた「運動会」の後子どもたちいろいろな変化が見られました。それまで、並ぶことになりの時間を要していた子が、笛の合図で他の子と同じように並ぶことができるようになった。トラブルが絶えなかつた子が、落ち着いて友だちと遊べるようになった。・・・など。

もちろんここに至るまで、先生方の指導があったことは言うまでもありません。行事を通して「子どもたちの〇〇を成長させる」といった共通認識を持つことも、子どもの成長に大切なことです。さて、クリスマス会では子どもたち、どんな成長ぶりを見せてくれるのでしょうか。その後の生活では、どう変化するのでしょうか。



### 第13回

## 幼児教育研究会を終えて

真駒内聖母幼稚園

教務主任 肥田 光代



たかと思えます。

クラス活動では、クラスの特徴・今後の活動を見据えての『いま』から、それぞれの保育を展開しました。いずれもそのベースとして、縦割り保育での子どもたち同士つながり・助け合いがあり、その関わりの中での個の支援と連携、普段の継続の中の1日でしたが、皆さま、ともに見て下さいましたこと、感謝致しております。

午後からは、上杉神父様より『子ども同士でのこころの育ち合い』というテーマで、事前に園の保育の中での事例等から細やかな資料もご用意下さった講演でした。

同じカトリック幼稚園の各園、それぞれ自園の『子ども』のことに思いを寄せ、お話を通して、改めて保育について見つめ直したり、気づきが得られたりということ共有できた貴重な時間となりました。

最後は、カトリック真駒内教会所属の高崎希美さんにご依頼してのヴァイオリンコンサートをお楽しみいただきました。研究会



この度の研究会を通して、開催にあたり、勝谷理事長をはじめ多くの皆さまのご協力により、無事終えることができ、私たちも大変よい学びを得る機会となりました。今後もよりよい保育に励んで参りたいと思います。

での演奏ということで、選曲にもいろいろご配慮下さり、限られた時間の中で素晴らしい時を皆さんと過ごすことができましたことをうれしく思います。

## 保護者からの手紙



### カトリック聖園こどもの家に入園して

カトリック聖園こどもの家 保護者 石川 良子

昨年10月にカトリック聖園幼稚園がこどもの家として新たに開園し、また、二人の娘が入園してから早一年が経ちました。共働きのため生後半年から保育園に通っていましたが、広い園庭とステンドグラスの素敵な教会、落ち着いた雰囲気、優しい先生方、子ども心をくすぐる行事の数々・・・素晴らしい環境に惹かれ、こども園への転園を決めました。入園して間もなく「お母さんは何でお仕事しているの？何で私は毎日お預かりなの？何で幼稚園の後、みんなと遊べないの？」と長女。子どもを預けて働く後ろめたさを感じながらも、お仕事も大切に続けたい事、一緒にいられる時間は少ないけど大好きである事を伝え、年少だった長女は「お母さんはお仕事好き

子どもを転園させずに、保護者の就業、就学、介護、退職等に対応できる事は、こども園の大きなメリットであり、多様な女性の生き方や社会進出のサポートとなります。反面、幅広い家庭環境が混在するからこそ、保護者会の在り方等の課題もあります。より良い環境を目指して、先生や保護者の皆様方と考えるべきだと思います。